

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。



# 株主通信

Vol.15

2013年度 決算号

2013年4月1日 ~ 2014年3月31日

■ 株主の皆様へ	1
■ 2013年度決算概況	2
■ 2014年度の取り組み	3
■ 研究開発パイプライン	5
■ 次期主力品プロフィール	6
■ 日本国内主要製品一覧	7
■ コーポレートガバナンス	8
■ 2013年度ハイライト	9

第一三共株式会社

証券コード 4568

## 株主の皆様へ



株主の皆様には日頃より当社の経営にご理解を賜り、誠にありがとうございます。

2013年度を振り返りますと、当社にとって2つの大きな出来事がありました。1つは、次の時代の主力品として期待する抗凝固剤エドキサバンのHokusai-VTE試験とENGAGE-AF試験において良好な結果が示され、日本・米国・欧州での承認申請を完了したことです。2014年度中の承認・発売を目指し、全社員が総力を傾注しております。

一方、ランバクシーにおいては、インド国内4工場が米国食品医薬品局(FDA)から輸入禁止措置を受け、品質保証の強化、データ信頼性の確保に向けてさらなる取り組みを推進してまいりました。当社としても支援を強化するとともに、業績回復・企業価値向上のための様々な方策を検討してまいりました。その結果、今般、サン・ファーマシューティカル・インダストリーズLtd. (以下「サン・ファーマ」)がランバクシーを吸収合併し、その対価として当社がサン・ファーマの株式を受領することが最善の方法であると判断し、2014年4月6日、3社において必要な契約を締結するに至りました。12月末を予定している合併手続き完了後、グローバルジェネリック企業として指折りの企業となるサン・ファーマと、当社の新興国事業に関するパートナーシップの展開につき交渉を進める予定です。

2014年度につきましては、最主力品である高血圧症治療剤オルメサルタンの売上維持、研究開発パイプラインの充実に加え、エドキサバンのグローバル発売、国内医薬のさらなる伸長等の主要課題にグループ一丸となって取り組んでまいります。

皆様の引き続きのご支援をお願い申し上げます。

2014年6月

代表取締役社長 兼 CEO 中山讓治

## 2013年度決算概況

当社グループは、財務情報の国際的比較、グループ内での会計処理の統一化等を目的として、2013年度より国際会計基準(IFRS)を適用しております。(日本基準との差異については、次頁をご参照ください。)

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)の売上収益は1兆1,182億円であり、前期比1,236億円の増収となりました。営業利益は1,116億円(前期比+128億円)、親会社の所有者に帰属する当期利益は609億円(同-31億円)となりました。

国内では、抗潰瘍剤ネキシウム、アルツハイマー型認知症治療剤メマリーが大きく伸長し、癌骨転移治療剤ランマークや高血圧症治療剤の配合剤レザルタスが売上を拡大しました。(7頁 日本国内主要製品一覧をご参照ください。)

海外では、円安による増収がありましたが、為替の影響を除外すると、米国子会社の第一三共Inc.はほぼ横ばいであり、ルイトポルド社は競合品の影響等により減収、第一三共ヨーロッパは増収となりました。アジア・中南米等では中国を中心に売上が伸長しています。

ランバクシーグループは、決算期変更に伴い15ヵ月決算(2013年1月～2014年3月)となったことで増収となりましたが、実質的には米国でのFTF製品\*の売上貢献がなかったこと、インド国内工場からの出荷停止等が影響し、厳しい内容となりました。

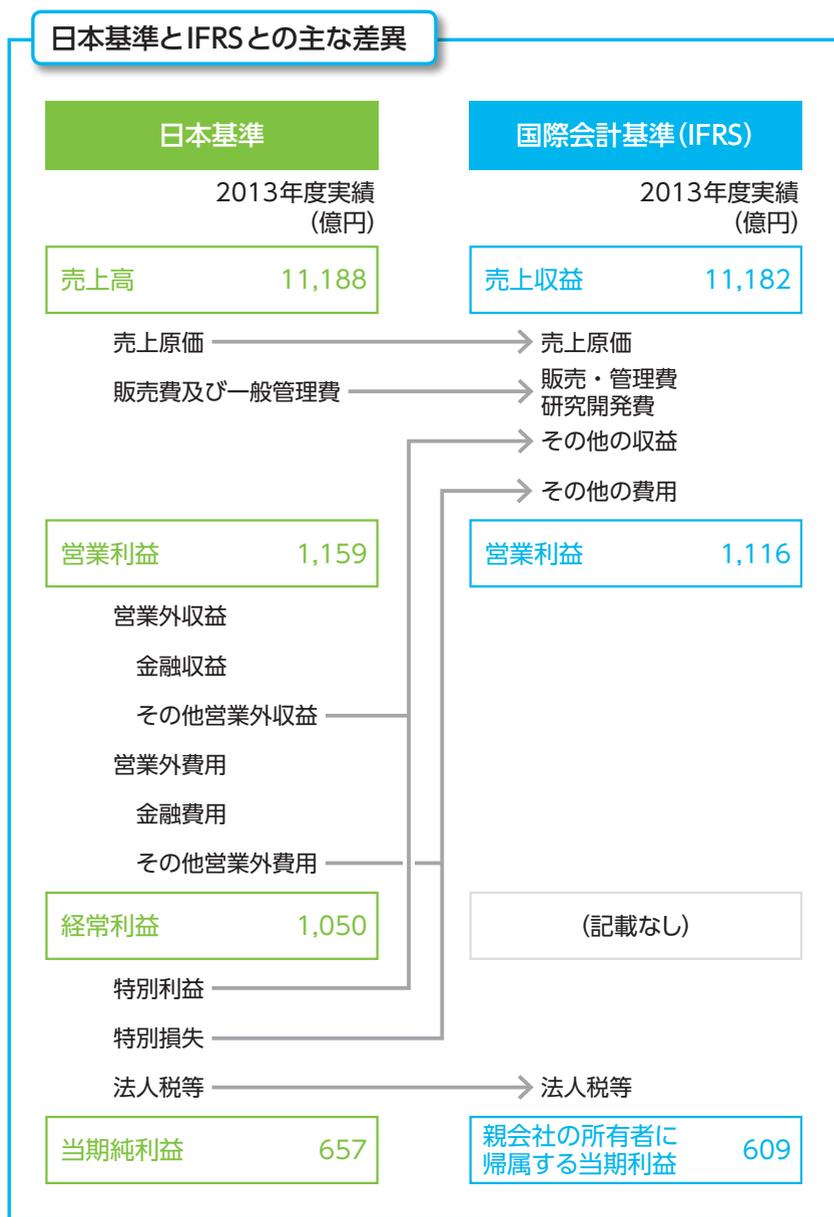
\*FTF製品 米国で180日間の独占販売権を有するジェネリック医薬品

当社グループの営業利益は、ランバクシーグループが減益となったものの、第一三共グループが増益となり、全体でも増益となりました。親会社の所有者に帰属する当期利益は、税金費用が増加したこと等により、減益となっております。

### 2013年度 連結業績の概要(IFRS)

(単位：億円)

	2012年度 実績	2013年度 実績	増減
売上収益	9,947	11,182	+1,236 <b>+12.4%</b>
営業利益	987	1,116	+128 <b>+13.0%</b>
税引前利益	959	998	+39
当期利益 (親会社帰属)	640	609	-31 <b>-4.8%</b>



2014年度は ①エドキサバンの大型製品化に向けた取り組み ②各地域における売上・利益の最大化に向けた取り組み等を主に推進してまいります。

### ① エドキサバンの大型製品化に向けた取り組み

エドキサバンにつきましては、2013年12月から2014年1月にかけて、日本・米国・欧州において新薬承認申請を完了しました。2014年度中に発売し、大型製品化を図るべく全社一丸となって取り組んでいます。

営業戦略に関し「抗凝固剤の市場特性」「求められる営業体制」について「エドキサバンの強み」「当社営業の強み」等の観点より検討を重ねてまいりました。新規抗凝固剤(NOAC)の市場は急成長している一方で、50年以上にわたって使用されている治療薬ワルファリンの処方依然として大きい割合を占めています。まだまだ切り替え余地が十分にあり新規処方を獲得し成長できる市場であると分析しています。

大型製品化に向けた成功への鍵は、エドキサバンの「高い安全性や1日1回投与の利便性」を効果的に訴求していく営業体制であり、求められるのは営業の「量」よりも「質」とであると判断いたしました。特に最初に患者さんを診察する専門医への適切な情報提供やより多くの患者さんにお届けするために公的機関や医療保険等の多様なステークホルダーに効果的にアクセスすること等が重要です。

一貫したブランド戦略にスピーディーな意思決定が不可欠となる中、エドキサバンの営業戦略として、日本・米国・欧州では、他社とのパートナーリングではなく、自社単独販売を行うことといたしました。それ以外の国では、市場環境や当社の営業基盤等を踏まえて、国や地域ごとに最適なパートナーを選定してまいります。

## ② 各地域における売上・利益の最大化に向けた取り組み

日本においては、アルツハイマー型認知症治療剤メモリー、抗潰瘍剤ネキシウムに加え、2013年6月に発売した骨粗鬆症治療剤プラリア(9頁参照)等新製品群を継続成長させることにより、シェアを更に伸ばし、国内トップクラスの営業力の強化を推進してまいります。

5月27日には抗血小板剤プラスグレルを製品名「エフィエント」として新発売いたしました。高齢化や生活習慣の変化により虚血性心疾患が増える中、経皮的冠動脈形成術(PCI)治療を受ける患者さんは年間25万人にのぼるとされています。循環器領域での豊富な経験を活かして、今後日本における標準治療薬へと成長させるべく注力してまいります。

また、米国においては、第一三共Inc.の売上維持を図るとともに、2013年8月に発売したルイトポルド社の鉄欠乏性貧血治療剤インジェクタファー(9頁参照)の急速拡大を図ります。

各部門、各地域において組織運営体制の最適化を推進するとともに、予算の効率運営徹底や調達機能の強化等により経費削減の成果を創出し、引き続き収益性の向上に努めてまいります。

## [2014年度 連結業績予想]

2014年度終了時には、サン・ファーマと合併予定のランバクシーが非継続事業となる予定であるため、継続事業である第一三共グループのみの経営成績を業績予想として公表しております。

2014年度の取り組みにより、売上収益9,200億円、営業利益1,200億円を目標とし、増収増益の達成を目指してまいります。

2014年度 第一三共グループ 連結業績予想 (単位: 億円)

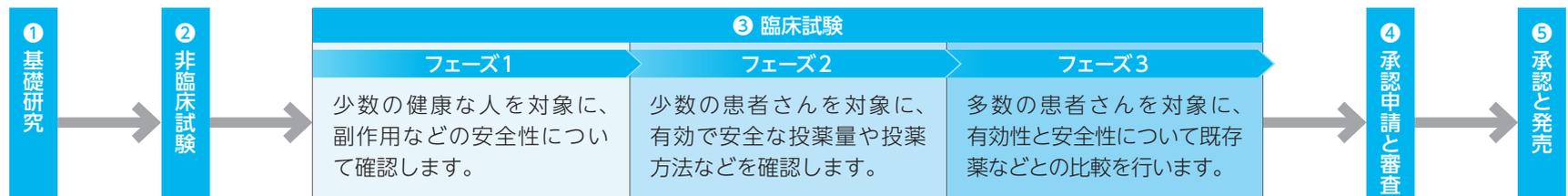
	2013年度 実績	2014年度 予想	増減
売上収益	8,991	9,200	+209 <b>+2.3%</b>
営業利益	1,129	1,200	+71 <b>+6.3%</b>
税引前利益	1,129	1,200	+71
当期利益 (親会社帰属)	688	780	+92 <b>+13.3%</b>
1株当たり 年間配当金(円)	60	60	

# 研究開発パイプライン

(2014年5月現在)

領域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請・承認
循環代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DS-7309 (糖尿病/グルコキナーゼ活性化剤)</li> <li>● DS-8500 (糖尿病/GPR119作動薬)</li> <li>● DS-1442 (脂質異常症/CETP阻害剤)</li> <li>● DS-1040 (急性期虚血性脳血管障害/TAFI阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CS-3150 (日) (高血圧症・糖尿病性腎症/MR拮抗薬)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラスグレル (日) (CS-747/虚血性脳血管障害/抗血小板剤)</li> <li>● プラスグレル (米) (CS-747/鎌状赤血球/抗血小板剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラスグレル (日) (CS-747/PCI/抗血小板剤)</li> <li>● エドキサバン (日米欧) (DU-176b/AF/経口FXa阻害剤)</li> <li>● エドキサバン (日米欧) (DU-176b/VTE/経口FXa阻害剤)</li> </ul>
癌	<ul style="list-style-type: none"> <li>● U3-1565 (米日) (抗HB-EGF抗体)</li> <li>● DS-2248 (米) (HSP90阻害剤)</li> <li>● DS-7423 (米日) (PI3K/mTOR阻害剤)</li> <li>● DS-3078 (米欧) (mTOR阻害剤)</li> <li>● DS-3032 (米) (MDM2阻害剤)</li> <li>● PLX7486 (米) (Fms/Trk阻害剤)</li> <li>● DS-8895 (日) (抗EPHA2抗体)</li> <li>● DS-8273 (米) (抗DR5抗体)</li> <li>● PLX8394 (米) (BRAF阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Patritumab (米欧) (U3-1287/抗HER3抗体)</li> <li>● Vemurafenib (米欧) (PLX4032/BRAF阻害剤)</li> <li>● PLX3397 (米) (Fms/Kit/Flt3-ITD阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Tivantinib (米欧) (ARQ 197 /肝細胞癌/Met 阻害剤)</li> <li>● デノスマブ (日) (AMG 162 /乳癌補助療法/抗RANKL抗体)</li> <li>● ニモツズマブ (日) (DE-766/胃癌/抗EGFR抗体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デノスマブ (日) (AMG 162/骨巨細胞腫/抗RANKL抗体)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PLX5622 (関節リウマチ/FMSキナーゼ阻害剤)</li> <li>● DS-1093 (腎性贫血/HIF-PH阻害剤)</li> <li>● DS-3801 (慢性便秘/GPR 38アゴニスト)</li> <li>● DS-1971 (慢性疼痛)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Mirogabalin (グローバル) (DS-5565/慢性疼痛/<math>\alpha 2\delta</math>リガンド)</li> <li>● SUN13837 (米欧) (脊髄損傷/bFGF様細胞分化誘導体)</li> <li>● ラニナミビル (米欧) (CS-8958/抗インフルエンザ/ピオタと導出活動中)</li> <li>● Ioforninol (日) (GE-145/X線造影剤/血管撮影)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● レボフロキサシン (日) (DR-3355 /感染症/ニューキノロン系抗菌剤)</li> <li>● デノスマブ (日) (AMG 162 /関節リウマチ/抗RANKL抗体)</li> <li>● ヒドロモルフォン (DS-7113 /癌性疼痛/<math>\mu</math>オピオイド受容体作動薬)</li> </ul>	

## 新薬が生まれるまで



### 抗凝固剤エドキサバン

エドキサバンは、当社が創製した新規抗凝固剤です。

静脈や血流の滞った心房内で血液が固まることを抑える働きを持ち、日本国内においては「整形外科手術後の静脈血栓塞栓症の発症抑制」の適応症で2011年より販売しています。(製品名：リクシアナ)

その適応疾患の1つである心房細動は、脳卒中を引き起こす恐れのある病気です。特に高齢者に多く、高齢者の割合が高い先進諸国では重要な医療課題となっています。全世界では年間600万人以上の方が脳卒中で亡くなっているとされ、心房細動に罹患していない患者さんに比べ、罹患患者さんでは脳卒中のリスクが3～5倍も高くなると言われています。

抗凝固剤治療においては、ワルファリンが長年にわたって標準治療薬となっていますが、エドキサバンはワルファリンと同程度の高い有効性を持ちながら、出血リスクが低く、安全性に優れることが確認されました。ワルファリン投与時のように頻回の血液検査の必要もありません。患者さんの状態に応じた用量調整が可能で、1日1回投与の高い利便性を持つのも特長です。



### 抗血小板剤プラスグレル

プラスグレルは、当社と宇部興産株式会社が創製した抗血小板剤です。

血液の流れが速い動脈で血栓の原因となる血小板の凝集を抑制する働きを持ち、すでに米国や欧州等70カ国以上で承認されています。国内においては、日本人に最適な用法用量を探索した上で、2014年5月27日、「経皮的冠動脈形成術(PCI)を伴う虚血性心疾患」の適応で新発売しました。(製品名：エフィエント)

虚血性心疾患とは、主に心筋梗塞や狭心症といった病態を指し、その多くは血管壁に蓄積したコレステロールや脂肪(プラーク)によって動脈が狭窄または閉塞することで発症します。プラークが破裂すると部分的にあるいは完全に心臓への血液の供給を妨げることもあり、緊急を要する重篤な状態になりかねません。重篤な症状になった場合、あるいはそれを未然に防ぐために、血管の狭くなったところにカテーテル(ステント)を入れて血管を拡げる経皮的冠動脈形成術(PCI)を行いますが、プラスグレルは、PCI後の血栓症等の発生抑制に、出血リスクを増大させることなく、しかも速やかにそして安定的に効果を発揮します。



# 日本国内主要製品一覧

製品名（一般名 略称）	薬効	発売年	概要
オルメテック（オルメサルタン）	高血圧症治療剤	2004年	アンジオテンシンII（AII）受容体拮抗剤。昇圧物質AIIと拮抗し、AIIがAII受容体に結合することをブロックすることにより血圧の降下作用を示す。
レザルタス（オルメサルタン／アゼルニジピン）	高血圧症治療剤	2010年	AII受容体拮抗剤（ARB）であるオルメサルタンとカルシウム拮抗剤アゼルニジピンの配合剤。
カルブロック（アゼルニジピン）	高血圧症治療剤	2003年	カルシウム拮抗剤。血管の平滑筋にあるカルシウムチャネルの機能を阻害することにより、血管拡張作用を示し、血圧を低下させる薬剤。
ロキソニン	消炎鎮痛剤	1986年	非ステロイド性消炎鎮痛剤。錠・細粒は強い鎮痛作用を持ちながら胃に優しいプロドラッグ（胃で代謝されず、腸から吸収されてから活性作用を示す）。ライフサイクルマネジメントの一環としてテープ剤等の剤型も追加。
クラビット	合成抗菌剤	1993年	ニューキノロン系抗菌剤。強い抗菌作用と広い抗菌スペクトラムを有する。ライフサイクルマネジメントの一環として注射剤の剤型も追加。
ネキシウム	抗潰瘍剤	2011年	プロトンポンプ阻害剤。アストラゼネカ社から導入。強力な胃酸分泌抑制作用を持つ。
メマリー	アルツハイマー型認知症治療剤	2011年	NMDA受容体拮抗剤。中等度及び高度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行を抑制する。
メバロチン	高コレステロール血症治療剤	1989年	HMG-CoA還元酵素阻害剤（スタチン）。肝臓でのコレステロールの合成を抑制することにより血中コレステロール値を下げる。
アーチスト	高血圧・狭心症・慢性心不全治療剤	1993年	$\beta$ 遮断剤。交感神経のアドレナリン受容体のうち $\beta$ 受容体のみに遮断作用を示す。
オムニパーク	造影剤	1987年	非イオン性のX線造影剤。普通に写真を撮っただけでは判断が難しい画像検査に用いる薬剤。
ユリーフ	排尿障害治療剤	2006年	選択的 $\alpha$ 1A遮断剤。下部尿路選択性であり、他の $\alpha$ 1A遮断薬と比較して起立性低血圧等の副作用発生頻度が少ない。
イナビル	抗インフルエンザウイルス剤	2010年	ノイラミニダーゼ阻害剤。インフルエンザウイルスの増殖を抑制。1回の吸入で治療が完結する。
リクシアナ	経口FXa阻害剤	2011年	経口FXa阻害剤。血管内で血液凝固に関与するFXa（活性化血液凝固第X因子）を選択的、可逆的かつ直接的に阻害する抗凝固剤。下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制の適応で取得。心房細動、静脈血栓塞栓症の効能追加予定。
テネリア	2型糖尿病治療剤	2012年	DPP阻害剤。消化管ホルモンでグルコース依存性にインスリン分泌を促すインクレチンの分解酵素のDPP（ジペプチジルペプチターゼ）-IVを阻害することで、インクレチンの血中濃度を上昇させる。その結果インスリン分泌が促進される。
ランマーク	癌骨転移治療剤	2012年	ヒト型抗RANKLモノクローナル抗体。多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変の新しい治療法。
プラリア	骨粗鬆症治療剤	2013年	ヒト型抗RANKLモノクローナル抗体。6ヵ月に1回皮下投与する新規骨粗鬆症治療剤。

# コーポレートガバナンス

当社グループは、経営環境の変化に対してより迅速かつ機動的に対応できる経営体制を構築するとともに、法令の遵守と経営の透明性を確保し、経営と執行に対する監督機能の強化を図り、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの信頼に応えることのできる企業統治体制の構築を重視しております。

## コーポレートガバナンス

2014年3月、社外役員の独立性判断に関する具体的基準並びに取締役の職務遂行にあたっての基本事項を決議し、今後のコーポレートガバナンス強化に資することとしました。

なお、6月23日開催の第9回定時株主総会後の取締役・監査役の体制は以下のとおりです。

### 取締役及び監査役 (2014年6月23日現在)



代表取締役社長兼CEO  
中山 譲治



代表取締役副社長  
佐藤 雄紀



代表取締役副社長  
坂井 学



取締役  
荻田 健



取締役  
廣川 和憲



取締役  
真鍋 淳



社外取締役  
平林 博



社外取締役  
石原 邦夫



社外取締役  
宇治 則孝



社外取締役  
戸田 博史



常勤監査役  
小池 和夫



常勤監査役  
千葉 崇



社外監査役  
木村 明子



社外監査役  
片桐 裕

### 社外役員としての独立性判断基準

当社は、取締役候補者の選定にあたっては、多様な視点に基づく決定機能の強化と、執行に対する監督機能の強化を目的として、必ず社外取締役に該当する人材を含めることとし、社外役員(社外取締役及び社外監査役)は、当社からの独立性を確保していることを要件としております。

「社外役員としての独立性判断基準」については、2014年3月31日の取締役会及び監査役会において、以下のとおり決議しております。

1. 次に掲げる属性のいずれにも該当しない場合、当該取締役及び監査役は、当社からの独立性を有し、一般株主と利益相反が生じるおそれがないものと判断する。

(1) 以下に該当する本人又はその近親者(2親等内の親族を意味するものとする。以下同じ。)

- ① 当社及び当社の親会社、兄弟会社、子会社の現在及び過去における業務執行者(社外取締役を除く取締役、執行役員及び執行役員等その他の使用人をいう。ただし、近親者との関係においては重要な者に限るものとする。以下同じ。)
- ② コンサルタント、法律専門家、会計専門家又は医療関係者等として、当該個人が過去3事業年度のうちのいずれかの1事業年度において、当社から1,000万円を超える報酬(当社役員としての報酬を除く。)を受けている者

(2) 以下に該当する法人その他の団体に現在及び過去10年間に於いて業務執行者として在籍している本人又はその近親者

① 取引関係

- (a) 当社グループからの、又は、当社グループに対する製品や役務の提供の対価としての取引金額が、過去3事業年度のうちのいずれかの1事業年度において、いずれかの会社の連結売上高の2%を超える取引先
- (b) コンサルティング・ファーム、法律事務所、監査法人、税理士法人、学校法人等であって、過去3事業年度のうちのいずれかの1事業年度において、その総収入額に占める当社グループからの支払い報酬等の割合が10%を超える取引先
- (c) 直前事業年度末における当社グループの借入額が、当社連結総資産の10%を超える借入先

② 主要株主

独立性を判断する時点において、当社の主要株主である会社その他の法人、又は当社が主要株主となっている会社。主要株主とは、発行済株式総数の10%以上を保有している株主をいう。

③ 寄付先

当社からの寄付金が、過去3事業年度のうちのいずれかの1事業年度において、1,000万円を超え、かつ、当該法人その他の団体の総収入額の2%を超える寄付先

④ 会計監査人

現在及び過去3事業年度において当社グループの会計監査人である監査法人

⑤ 相互就任関係

当社の業務執行者が、現任の社外取締役又は社外監査役をつとめている上場会社

2. 前項のいずれかに該当する場合であっても、取締役会又は監査役会において総合的な検討を行い、独立性を確保していると判断する場合には、社外役員の要件に問題がないと判断することがある。

## グローバルヘルス技術振興基金への参画

4月8日

開発途上国の感染症に対する日本発の新薬創出を推進することを目的とした「グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund)」の設立に参画しました。

世界では、10億人を超える最貧困層がエイズ、マラリアや結核、顧みられない熱帯病により健康を害していると推定されています。これらの疾病を制圧するためには、低価格で効果の高い、治療薬・ワクチン・診断薬等が必要不可欠です。開発途上国における医薬品アクセスの向上を図り、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献してまいります。

## 「インジェクタファー」新薬承認取得 (米国)

7月26日

米国子会社ルイトボルド・ファーマシューティカルズ Inc. が、米国食品医薬品局 (FDA) より、鉄欠乏性貧血治療剤「インジェクタファー」の新薬承認を取得し、8月に発売しました。

米国において、様々な疾患領域における鉄欠乏性貧血の患者さんに新たな治療法を提供できるルイトボルド社の主力品になるものと期待しております。



2013

4

5

6

7

8

9

10

11

## 「プラリア®皮下注60mgシリンジ」新発売

6月11日

骨粗鬆症治療剤「プラリア®皮下注60mgシリンジ」を新発売しました。

プラリア®は、ヒト型抗RANKLモノクローナル抗体製剤で、骨吸収に必須のメディエーターであるRANKLを特異的に阻害する新規骨粗鬆症治療剤です。6ヵ月に1回の皮下投与で製剤であることも特長のひとつです。

骨粗鬆症による骨折は、寝たきりを含めて高齢者の生活の質を著しく低下させます。適正使用情報の提供を確実に推進しながら、骨粗鬆症治療に貢献できるよう努めています。



## 新規投資ファンドを活用したオープンイノベーション事業を開始

9月17日

三菱UFJキャピタルが設立・運営するOIDEファンド投資事業有限責任組合を通じて、新たなオープンイノベーション事業を開始しました。

画期的な創薬を目指す製薬会社では、多様化する医療ニーズに応えるため、新規創薬基盤技術の獲得が不可欠であり、大学発バイオベンチャーとの協業など、オープンイノベーション活動の重要性が高まっています。

## 「エドキサバン」大規模臨床試験結果発表～承認申請

「エドキサバン」の2つの大規模臨床試験「Hokusai-VTE試験」・「ENGAGE AF-TIMI 48試験」において、対照薬であるワルファリンに対して有効性で非劣性、安全性で優越性を示すことが確認され主要評価項目を達成したことを、それぞれ2013年9月の欧州心臓病学会(ESC)、同11月の米国心臓協会(AHA)年次学術集会にて発表しました。

この結果に基づき2013年12月に日本で、続いて2014年1月に欧州・米国で非弁膜症性心房細動(AF)及び静脈血栓塞栓症(VTE)に係る両適応症について承認申請を行いました。

承認取得に向けて、各国薬事当局との連携に努めてまいります。

12 ..... 2014 1 ..... 2 ..... 3

## 「プラスグレル」 日本国内承認取得～発売へ

「プラスグレル」は、日本において実施した2つの臨床試験「PRASFIT-ACS試験」と「PRASFIT-Elective試験」において有効性及び安全性が確認されました。この結果を踏まえ、経皮的冠動脈形成術(PCI)を伴う虚血性心疾患の適応に関し、2014年3月に国内における製造販売承認を取得しました。

薬価収載を経て、2014年5月27日に製品名「エフィエント<sup>®</sup>錠」として新発売しました。新たな選択肢を提供することで、日本の虚血性心疾患治療に貢献してまいります。

## CSRコラム 移動診療サービスの展開

### 世界各地で重要な社会問題となっている健康と医療

途上国や新興国では、生まれてすぐに赤ちゃんが亡くなったり、健康に育たなかったり、お母さんが妊娠中や出産で亡くなってしまうことが、日常生活の中で起きています。第一三共は、これらの社会問題を抱えたアフリカとインドの農村部において移動診療車による移動診療サービスを行っています。

アフリカでは、国際NGOプランの協力を得て、  
カメルーンとタンザニアで活動を展開しています。

医療チームを乗せた移動診療車を村に派遣し、不足していた保健サービスと住民たちへの健康啓発活動を行うことにより、お母さんや子どもたちの健康が着実に改善されています。また、移動診療車が巡回できない期間に村の人々の健康を支える保健員の育成にも力を入れています。保健員の活動もまたお母さんや子どもたちの健康改善に大きく貢献しています。



活動内容を動画でご覧いただけます。

[http://www.daiichisankyo.co.jp/corporate/library/04\\_01.jp.html](http://www.daiichisankyo.co.jp/corporate/library/04_01.jp.html)

# 企業インフォメーション (2014年3月31日現在)

## 会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医薬品等の研究、開発、製造、販売及び輸出入
従業員数	32,791名(連結)

## 株式情報

発行済株式総数	709,011,343株
株主数	118,816名

## 株主名簿管理人連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

## 所有者別株式分布状況

	持株数(千株)	持株比率(%)
政府及び地方公共団体	0	0.00
金融機関	281,938	39.77
金融商品取引業者	21,008	2.96
その他の法人	43,948	6.20
外国法人等	222,682	31.41
個人その他	134,379	18.95
自己株式	5,053	0.71

## 大株主の状況

	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	45,201	6.38
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	39,667	5.59
日本生命保険相互会社	36,717	5.18
ジェーピー モルガン チェース バンク 385147	17,335	2.44
みずほ信託銀行(株)	14,402	2.03
退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行(株)		
(株)三井住友銀行	11,413	1.61
第一三共グループ従業員持株会	11,180	1.58
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	9,156	1.29
ザ バンク オブ ニューヨーク 133522	8,890	1.25
(株)みずほ銀行	8,591	1.21

## 株主さまアンケート ご協力のお願い

アンケートは  
ここをクリック!



株主通信は、バックナンバーも含め当社ウェブサイトでもご覧いただけます。同ページにてアンケートも実施しておりますので、ぜひご意見をお寄せください。

[http://www.daiichisankyo.co.jp/ir/library/business\\_report/index.html](http://www.daiichisankyo.co.jp/ir/library/business_report/index.html)

**NEW**  
ひざ用 (膝用) 女性用・左右共用 M-Lサイズ

パテックス 機能性サポーター ハイグレードモデル  
フコール 共同開発

独自のクロステーピング構造でひざを含み込み、ひざ関節を安定  
ストレッチ素材

まだまだ、動き続けたいあなたへ。

ワコールとの共同開発  
クロステーピング機能  
薄いストレッチ素材  
独自のズレ防止機能

パテックス 機能性サポーター ハイグレードモデル ひざ用 男性用/女性用 左右共用・M・L・LL

お買い求めは、全国の薬局・ドラッグストアで 第一三共ヘルスケア  
本品についてのお問い合わせは お客様相談室 0120-337-336 受付時間9:00~17:00(土、日、祝日を除く)

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

## 第一三共株式会社

お問い合わせ先  
コーポレートコミュニケーション部

住所 〒103-8426  
東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号  
Tel. 03-6225-1125 Fax. 03-6225-1132  
Web <http://www.daiichisankyo.co.jp>